宮崎社長の首を爭ふ

十三堤に集つた一千の勞働者

大電爭議の摸擬戰に必勝を期してイキリ立つ

10.5.16 大、日々

十四日夜北區端建築組で端なくも警官隊と大衝突をしてまた〳〵問題を惹起した大電爭議團は更に十五日午前九時集合二時過ぎから十三堤防下で運動會を開催したが何分前夜、警官に阻止せられて深更迄騷いだ爲め疲れがしこの際思ひ

靴は高見

大阪南區浅橋筋雜波驛前
合名會社 高見商會
電話南五一三七番
振替口座三六二一五

切つて休養をとるべきであるにも拘らず、午前十時半頃から續々と繰出し、午後一時頃には千數百名の群集となり、紅白取り交ぜの組合旗に、白地に「死ぬるなら一緒に死ぬるまで」とか「自由の爲に」とか大書した吹貫其他紅白大小の多數の旗が折からの軟風にひら〳〵程遠れて十時半頃からボツ〳〵神津橋附近に集合し

剩へ工組合の約五十名、印刷工組合約四十名、新進會約百名、機械勞働組合約三十名、造船工組合約二百名、御本尊の大電關係約四百名それに大正橋附近で集合して其總十三の方へ繰込んだ二三の團體は

何れも北へ友愛會大阪支部の前で萬歲を唱へながら北へ進んだが大概は些ツ振勝ちに一直線に勞働歌を高唱しながら各組合旗を先頭に立て、運動會場と定められた十三へと繰込み阪急線下には是等各團體最高幹部の驅次を混へて約千數百名の群集となり紅白取り交ぜの組合旗に、白地に「死ぬるなら一緒に死ぬまで」とか「自由の爲に叫ばん」とか大書した吹貫其他紅白大小の多數の旗が折からの軟風にひら〳〵

次に友愛會の來氏が登壇日露戰爭當時八代大佐は戰たけなはなる尺八を吹奏して士氣を鼓舞したと云ふ我等が戰に臨んで此覺悟がなければならぬ大電は已に囲つて居る宮崎の頭から湯氣が立つて居ると共に反し我等は未だ未だ除幕縛々だにして此除幕は來氏二派の「勞働運動」の同人及江口渙、宮島資夫、高尾平兵衛其他四十幾人を同人とする泉の勞働社一味である、友愛會が暗嘩を買つた譯ではないが一日發行の業雜誌に發表さる、廣生久氏の我等の立場と云ふ論文(尼尾評論の一部)である、此論文は次の如き

挑戰狀

たゞ云ふ、而して此文章は社會主義同盟中の勞働運動者と友愛會との感情を益たくするばかりか勞働組合同志の間にも無色々な感情の生ずるなるらしい、此暗嘩は社會主義者と友愛會の暗嘩、このみ云ひ狹ぬる點もある、それは廣生久氏が社會主義同盟に於て發企人中の重要な人物であるのみならず友愛會其もの、議會をも信頼せず飽迄直接行動を組合運動の原則とする事に於て社會主義同盟の人々と軌を等しうするからだ、且つ廣生氏等は社會主義者には

巡査こそ

街頭で搖籃して

呉んで居る人間はかりではない一と云ふ事を事實の上に示す或る評

大電前へ示威行列

午後中之島公園に集る

午後三時に運動は打切り其後は各自樂隊に成らぬ程度で何れも中之島公園に集合其れより隊伍を整へて公會堂前より西へ朝日新聞前で敬意を表し淀筋を西へ大電本社へ示威運動を試み警戒を逆廻して再び西野田玉川町の友愛會本部前で解散の豫定である尚當日は前夜の衝突に懲りたのか警官の姿なのか警戒は至つて嚴かで僅か數十名の正服で中津警長中岡司法主任等で各署からは應援も來なかつたが私服は相當らず多數警戒して居つた

社會主義者と友愛會の喧嘩

組合運動か街頭の格鬪か

友愛會では、急遽開かれた暗嘩を買つて起つた譯ではないが、相手は大杉榮氏等で警官と格鬪する一人の男士よりも數まつて團結する百人の組合がある、之に對する社會主義側の批難は知識階級が其一で法學士で攻撃である職業心理とは組合を大きくするために徹して戰ふべき時にも戰はず勞働者が心の底から打ちこまれは止まずとするときにも是を抑壓して純な勞働者の氣持ちを發揚させない是は

新社會

に近づくために却つて邪魔になると云ふのである

又も大電職工と警官隊の大衝突

演說會は解散を命ぜられ

安治川發電所に突進せんとして職工と巡査廿六名負傷

【大阪電話】大電職工約百名の中十數名宛團を組み示威運動をして西野田にある勞働者合同勞働事務所に向つたが其一部は突然反對の方向に向ひ、安治川發電所に至つた、警官隊は之れを聞いて駈つけ發電所に百數十名の警官が

警戒中

であつたが職工連は警官を押退けて發電所内に突進したので、茲に大衝突を演出し双方から數名の負傷者を出した友愛會支部の西尾末弘の兩氏は檢束された職工連は兩氏を奪ひ歸さうとして又も警官と衝突して、更に外の數名が拉し去られたが東、藤岡兩名が一方職工を制し、大木監察官、太間保安課長に交渉して西尾末弘兩氏を放還して貰ひ、他の取調の上放還されることとなつた、一同は歩を轉じて友愛會支部に至り同所前で演說をしやうとしたが玆でも警官に解散を命ぜられて押し合つた、八時頃に至り遂に一同引上げた安治川發電所前の衝突で島崎刑事佐久間巡査太郎外警官八名重輕傷を負ひ職工側は

十八名

の負傷者があつたが爲め職工の負傷者は右安治川發電所内で夫々手當中である

松岡理事

大阪に急行

中央協議會は

昨夜派遣員協議

大阪の大電職工罷業に就て友愛會中央協議會は打續き開かれ其結果大阪支部が主となり、神戸支部と協力して、職工の策戰に努めて居るけれども形勢はどう變ずるか判らんので、友愛會本部から松岡理事が應援のため出張した、又東京聯合會では十五日夜松岡理事が應援のため出發、夜中央協議會を開き派遣員應援の方策を協議した

棚橋理事は

「詳しい事は知らんが昨日大阪からの通知に依ると會社側に現在勤めて居る職工は廿時間も働き續けて非常に弱つて居り、他に代へるべき職工がないから會社側は遠からず讓歩して來なければならない狀態にあるさうだ」と語つた